

テルミースコープ

【禁忌・禁止】

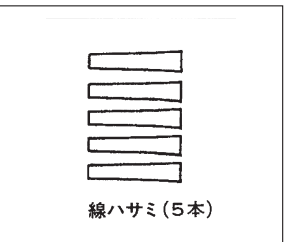
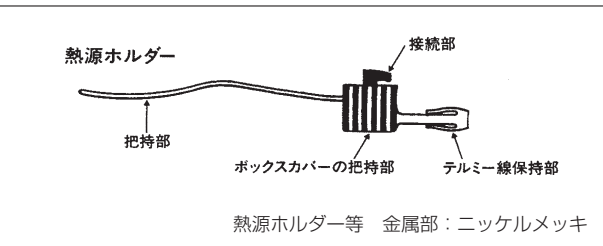
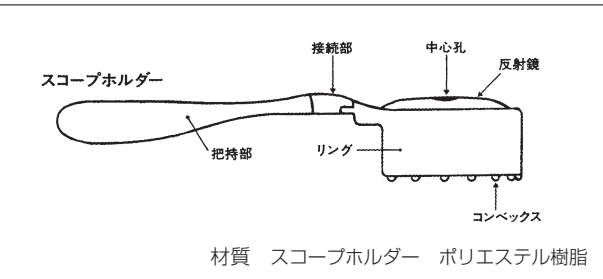
1. テルミースコープは同一皮膚面だけにかざしておかないようにしてください。[火傷をするおそれがあります]
2. 使用中に異常を感じた場合はただちに使用を中止してください。
3. 本製品は使用目的以外に使用しないでください。
4. 本製品の加工・改造等は絶対に行わないでください。

【形状・構造及び原理等】

テルミースコープは熱源にはテルミー線（棒状もぐさ線香）を使用し、5 本まで任意に装着できます。

皮膚面は点火されたテルミー線の赤熱部からの輻射熱、介在空気による伝導熱、反射鏡の内側面による反射熱および反射鏡と皮膚面との間に滞留する煙により温熱効果を促進させます。またリング下辺にコンベックスがあり皮膚刺激も容易に出来ます。

テルミースコープ説明図



【使用目的又は効果】

「温きゅう効果」

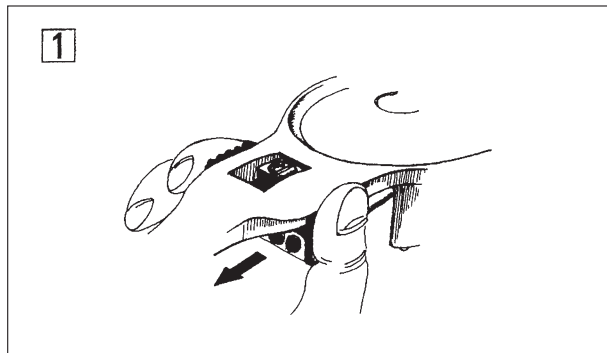
1. 疲労回復
2. 血行をよくする
3. 筋肉のこりをほぐす
4. 筋肉のつかれを取る。
5. 神経痛、筋肉痛の痛みの緩解、胃腸の働きを活発にする。

【操作方法又は使用方法等】

① → ② → ③ → ④ → ⑤ の順に準備してご使用下さい。

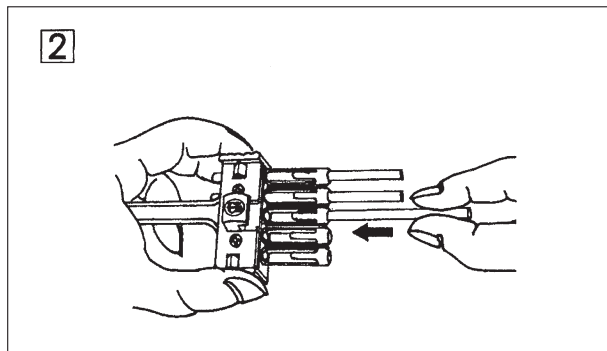
① スコープホルダーから熱源ホルダーを取りはずす

熱源ホルダーのボックスカバー把持部を持って上に押し付ける様にして黒矢印の方向へ移動させ下に引くと熱源ホルダーがはずれます。



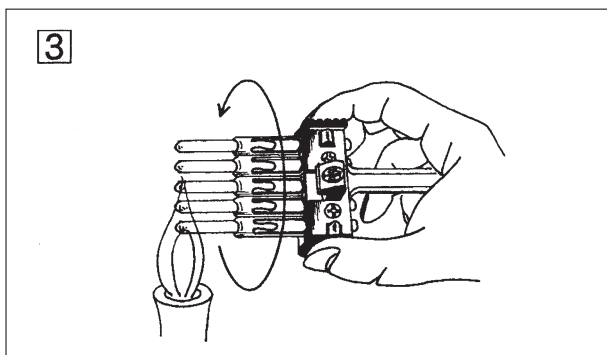
② テルミー線の装着

熱源ホルダーのテルミー線保持部に必要本数のテルミー線を先端より 3cm 露出する様にテルミー線保持部先端小孔よりさし込みます。



③ テルミー線の点火

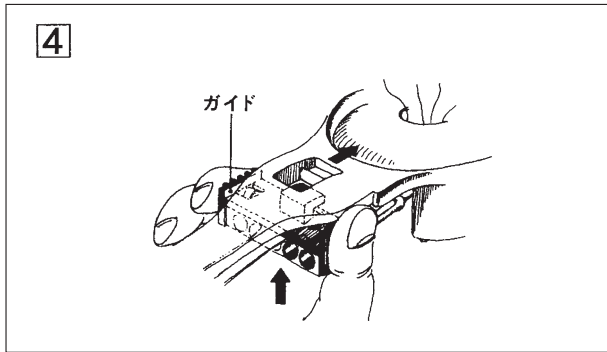
ボックスカバーの把持部を持ちローソクの炎に対して、直角に点火します。



④ スコープホルダーに熱源ホルダーを取り付ける

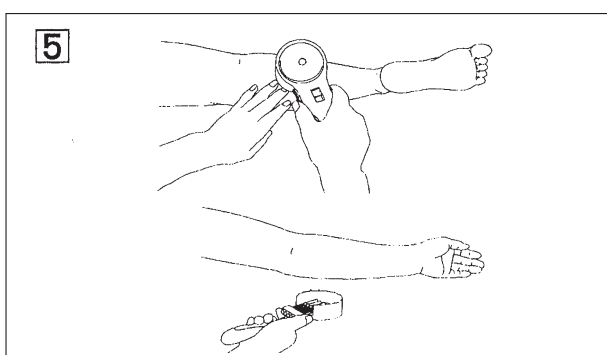
テルミー線装着点火の後にスコープホルダー接続部の穴に熱源ホルダーの接続部を入れます（接続部に入れる時ガイドに合わせて下さい）。

次に上に押し付ける様にして黒矢印の方向へ移動させ、カチッと止まったら取り付けは完了です。



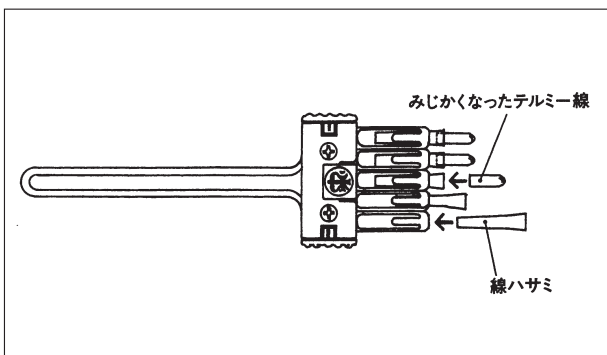
⑤ テルミースコープの使用方法

テルミースコープを図のように持ち、少しずつ動かしながら広い範囲に熱を入れます。



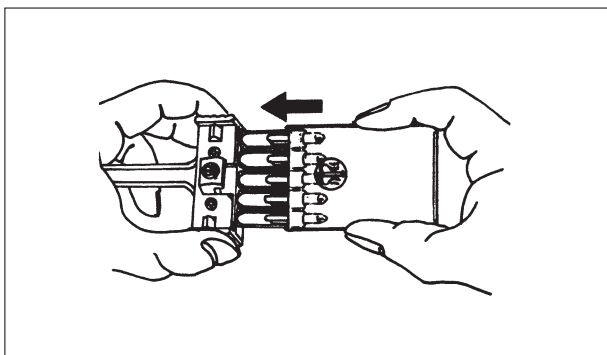
〈線ハサミの使い方〉

熱源ホルダーに図のように線ハサミを挿入して固定し、みじかくなったテルミー線を差し込んで使用します。



〈火消しの使い方〉

テルミー線に火がついたまま使用を中止するときは、スコープホルダーより熱源ホルダーをはすし、付属の火消しの中にテルミー線保持部ごと入れておくと火は自然に消えます。

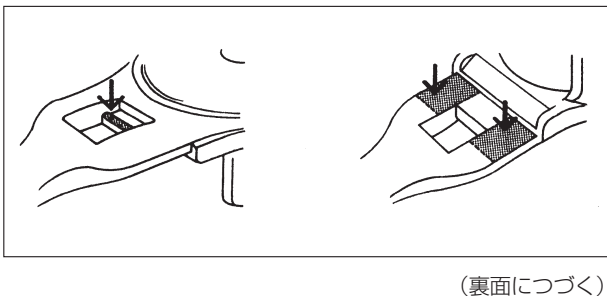


【使用上の注意】

1. 使用方法がわからないときは、製造販売業者に問合せ下さい。
2. 火の取り扱いには十分注意して下さい。
3. 熱源ホルダーのみを用いて他の人に使用するときには、必ず自分の手指を添えて、温度を確認しながら行って下さい。
4. 使用中には、時々灰を落とすようにして下さい。
5. 洗浄は洗剤にて常に清潔にして下さい。

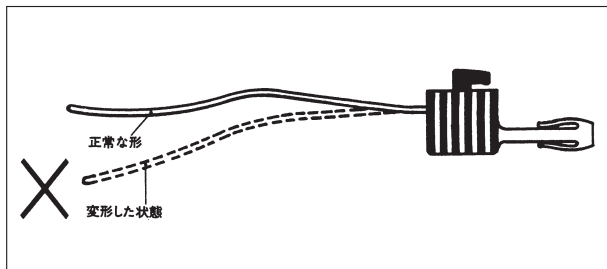
〈熱源ホルダーとスコープホルダーのはめこみがきつくなった場合〉

清掃後に↓印部にローソクのロウを塗り布で拭きとるとスムーズに入ります。

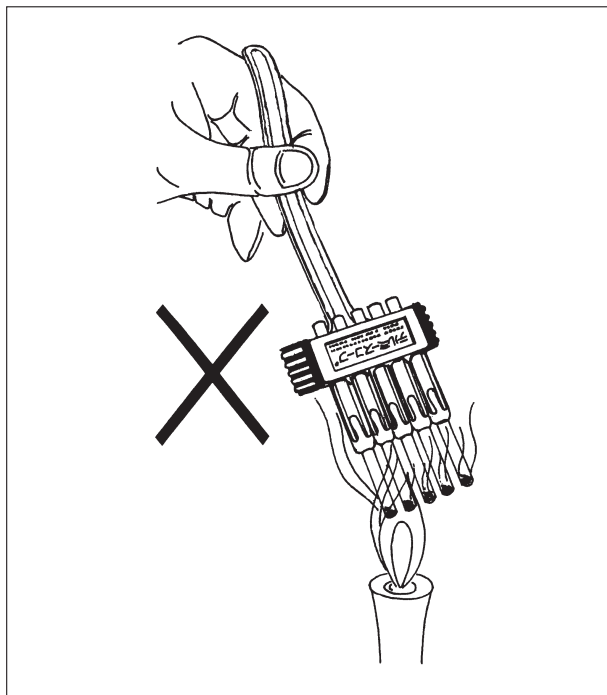


〈熱源ホルダーの把持部が変形した場合〉

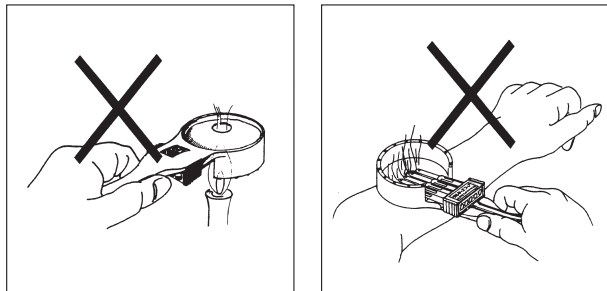
熱源ホルダーの把持部が点線のように変形するとスコープホルダーと熱源ホルダーが固定しません。その時は図のように正常な形に戻してください。



〈図のような使い方はしないでください〉



※スコープホルダー及び熱源ホルダーは耐熱性、難燃性ですが、直火にかざさないこと。



※この点火法はさけてください。 ※この使用法はキケンです。絶対にしないでください。

【貯蔵・保管方法】

子供の手の届かない場所に保管して下さい。

【包装】

「テルミースコープ説明図」が1箱の内容です。

【製造販売業者及び製造業者の氏名又は名称等】

製造販売業者・製造業者

株式会社 路 寿

〒154-0021 東京都世田谷区豪徳寺 1-23-20

☎ 03(3425)2131(代) Fax 03-3425-2142